



シロバナマンジュシャゲ *Lycoris x albiflora*  
ヒガンバナ科

## 名古屋大学博物館友の会

# NUM 友の会ニュースレター

## No. 60

### 2020年10月1日発行

### 名古屋大学博物館 開館のお知らせ

館長 吉田英一

友の会の皆様へ、日頃より名大博物館の活動にご協力を頂き、心より感謝申し上げます。未だコロナの感染については、第2波と思われる感染拡大が収束してはおりませんが、徐々に減少傾向にあることから、名古屋大学においても学生ならびに一般の方々について、マスクなどのコロナ対策および滞在時間制限などを設けた上でのキャンパス内への立ち入りが可能となりました。この判断を受けて、博物館においても9月8日(火)から、下記の条件で開館をしております。未だ、完全な開館とはいきませんが、少しずつ制限を緩和しつつ、皆さんへの情報提供に努めてまいりますので、現状をご了承の上、どうか宜しくお願いたします。これまでの長きに及ぶ休館を心よりお詫び申し上げます。

開館日：火曜～土曜日（月曜・日曜は休館）

開館時間：10:00～15:00（入館は14:30まで）

当面の間は、時間を短縮して開館いたします。

なお、感染防止のため、下記のご利用制限があります。

☆滞在時間：1時間まで

☆入場制限：館内滞在者数は20人まで

☆団体利用：10人未満のみ

また、ご来館の際は、感染防止策のため下記にご協力ください。

- ・体調不良の方は、入館をお控えください。
- ・入館の際に連絡先のご記入をお願いします。
- ・マスクの着用、手洗い、手指の消毒をお願いします。
- ・壁や展示ケースには、お手を触れないようにお願いします。
- ・周囲の方と距離をとってご鑑賞をお願いします。

☆野外観察園については、園内工事のため10月1日から開園となりました。詳細は、名古屋大学博物館HP (<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/>) をご参照ください。

### 友の会会員向けギャラリートークのご案内

特別展「アフリカから東山キャンパスまで：  
名古屋大学による遺跡調査からみる人類史」

博物館 門脇誠二

日時：10月19日（月）13:00～

場所：名古屋大学博物館 特別展会場

本来は3月から開催予定だった特別展がようやく開催されることになり、上記のように友の会会員向けのギャラリートークを開くことにしました。

友の会会員の皆さまには、長らくお待ちいただき感謝申し上げます。

本展示は、2019年に名古屋大学人文学研究科考古学研究室から博物館に移管された考古資料などを公開したものです。移管された資料は、主に東海地方西部の旧石器時代から中世までの200遺跡ほどから集められた土器や陶磁器、石器、骨など、約550箱になります。それ以外にも、人類が誕生したアフリカの遺跡や、古代エジプトのピラミッド調査、中米のオルメカ・マヤ文明の石彫拓本など、様々な地域と時代の歴史に触れることができます。是非ご参加ください。

なお、新型コロナウイルス感染防止のため、1回のギャラリートークは10人までに限らせていただきます。人数把握のため、参加ご希望の方は、10/12（月）までに博物館事務室までご連絡ください（052-789-5767）。10名を超える場合は、複数の回に分けて実施します。



## 会員随想(原稿を随時募集、400字以内、テーマ自由)

### 虫の音

池田泰子

夜の畑へ虫の音を聞きに行きました。

19時から20時の予定で、友人の息子さんが先達で出かけました。周囲は住宅地ですが畑の入り口あたりに街灯が一つあるだけの暗闇で、耳いっぱいアオマツムシの鳴き声です。昼間、一体どこにいたのでしょうか。



アオマツムシ(♀)      エンマコオロギ(♀)

しばらくすると、だんだん耳が慣れてきて、アオマツムシのチンチロリンやエンマコオロギの声、ハラオカメコオロギのひそやかな声、ミツカドコオロギの鋭い声、ツヅレサセコオロギのカタサセスソサセ、カネタタキの忙しい声、クマコオロギ、セスジツユムシ、ウスイロササキリが聞き分けられるようになりました。

木と草が程よく茂っていると、こんなに？と思うくらいたくさん虫の音が聞けました。帰路、道脇の街路樹にカネタタキやアオマツムシ、溝に茂る草の中でハラオカメコオロギやミツカドコオロギが鳴いていました。秋です！

(ちなみにこの畑は無農薬です。)

写真提供：石川進一朗氏

昆虫大好き青年で、自宅に約60種を飼育。好きな昆虫はカマキリやクワガタ。4歳のころから切り紙を始め、1枚の紙を切って立体的な昆虫を作り上げる切り紙作家でもあります。名古屋大学博物館でもムシの展示や切り紙実演にご協力いただいています。

### ステイホームと手紙

中川弘美

春のステイホーム中は、手紙をたくさん書きました。親しい人だけでなく、ご無沙汰している人など、いろいろです。振り返ってみると、年齢層も幅広く15歳から91歳まで。我ながらうれしい驚きでした。

自分自身のコレクションもあるので、それ以上に父の切手、母の絵葉書や便箋があり、それらを活かしたいとも思いましたので。

8月になってから、暑中見舞いや残暑見舞いとして返事をいただくことがふえました。中には、自分が手紙を出したことをすっかり忘れていた人もいて(笑)、『春にはお便りをありがとうございました。すごくうれしかったです。なのに返信が遅れすみません』。いえいえとんでもない、大丈夫。またお手紙書きますね。

リモート全盛の世の中ですが、このような時の流れとコミュニケーションを楽しんでいる昨今です。

### 木彫りと私

石井郁代

名古屋の自由ヶ丘学区に住み、娘たちの小学校のP・T・Aのクラブで木彫りに出会ったのは、ちょうど50年前の昭和45年9月でした。こんな楽しいことがあるのかと驚き、彫刻刀を買い暇な時間に分けていただいた材料をこつこつと彫って行きました。どれも垢抜けられないけれど殺風景な部屋を飾り、手元で使えるのでとても嬉しかったです。

クラブは2ヵ月だけでしたので近所の先生に2年。毎日文化センターで8年。木の大好きな高見町の伊藤多賀志先生に30余年、いつの間にか家中が木彫りだらけになっても彫刻を止めることは考えられなかったです。

親類にも新築祝、結婚祝、仲人の10数組のお祝いに鏡など何10枚プレゼントさせてもらったことでしょう。娘2人の結婚祝にも彫り、埼玉と奈良の家では目を細めている私です。

今は平櫛田中賞受賞の彫刻家黒<sup>くろ</sup><sup>らび</sup><sup>ら</sup><sup>び</sup> 藤壮氏に月2回立体のものを習っています。木彫りに出会い、弟子も大勢出来、幸せな日々を夫に感謝しています。



## 名古屋大学博物館 お宝の紹介 その2

### ギベオン鉄隕石

足立 守

ギベオン鉄隕石は、アフリカ南部のナミビア砂漠のギベオンで1836年に発見された隕石です。鉄隕石に特徴的なウィッドマンシュテッテン構造がとくにきれいなことで有名で、イギリスのロンドン自然誌博物館、ドイツのゼンケンベルク博物館、アメリカの Smithsonian 博物館など、世界の名だたる自然誌博物館には、必ずといっていいほど展示されている有名な隕石です。



ギベオン鉄隕石（重くて、黒光りした表面に見られる“えぐれた”模様が鉄隕石らしい）

名大博物館の標本は、約50cm×40cm×25cm、重さ約100kg（きちんと計量していないので正確な値ではない）で、おそらく日本にあるギベオン鉄隕石の中で最大級のものです。

この“お宝”ギベオン鉄隕石の来歴について少し書いておきます。名大博物館ができてしばらくしてから、名古屋のアマチュア隕石コレクターだった澤井さんの息子さんと娘さんが博物館に来られ、おふたりから寄贈を受けたものです。息子さんから、「先日急逝した父が、生前、名古屋大学にはお世話になったので、この隕石を父の記念の品として名大博物館で受け取ってもらえないか」と話があり、当時館長だった足立が受け取りました。

澤井さんと名古屋大学の関係のはじまりは、環境学研究科で隕石の研究もされたことがある田中剛先生が、地球化学会名古屋大会の折に、澤井さんの隕石コレクションを会場の一角で展示して講演に使ったことによるご縁からようです。

## シリーズ Artist Earth (11)

### 縞（しま）状鉄鉱層の褶曲（しゅうきょく）

足立 守

縞状鉄鉱層（Banded Iron Formation = BIF）は、先カンブリア時代（Precambrian）を特徴づける堆積岩です。写真の赤いBIFの産地は西オーストラリア北部で、今から約31億年前の海で誕生しました。このBIFは、赤褐色のチャート、灰色の鉄鉱石、金色のタイガーアイ（tiger-eye）の3つからできていますが、例外的にタイガーアイが目立つ標本です。3種類の石が数mm～数cmの厚さで層状に積み重なり、その後、全体が折り畳まれて見事な褶曲構造を作っています。

タイガーアイは、オーストラリア、ブラジル、南アフリカ、アメリカなどから産する準宝石ですが、どの地域でもBIFといっしょに見つかっています。タイガーアイを構成する金色の鉱物は鉄分を含む繊維状の石英（カルセドニー）で、繊維状のリーベック角閃石（クロシドライト）がシリカ（SiO<sub>2</sub>）で置き換えられたものと考えられています。

このBIF標本は1996年に開館した岐阜県七宗町の「日本最古の石博物館、Hichiso Precambrian Museum」の目玉展示標本の一つとして、西オーストラリアで見つけて運んできました。しかし、展示室に搬入する直前になって石が重く床強度がもたないことが分り、泣く泣く半分に切断しました。重量オーバーがなければ、このような“お宝”BIF標本が、名古屋大学博物館に来ることはなかったでしょう。



タイガーアイを含む縞状鉄鉱層（西オーストラリア・ゴールドズワージー。写真の横幅約70cm相当）。丹慶勝市（写真サークル世話人）撮影

## 野外観察園 2020 秋

吉野奈津子

暑い夏でしたが一気に秋の気配が感じられるようになり、私もやっと水やりから解放されました。たまに降ってくれる雨はありがたいですね。

観察園では入口近くにあるノカンゾウが次々と咲いて出迎えてくれます。続いてセンニンソウ、シロバナマンジュシャゲ、タマスダレと白い花で賑わっています。私も！！となぜかセッコクまで仲間入り、いい香りに癒されます。セミもいつしかいなくなり、虫の音が心地よいですね。観察園には何種類の秋の虫がいるのでしょうか。調べてみるのも面白いかもしれません。

先日可児市の田舎道を車で走行中、道のわきに大量の中華麺が。昨年観察園でも出沒したネナシカズラの仲間です。今年は観察園には出てこず、撲滅作戦は成功だったようです。そして今年も冷やし中華を食べなかったなど。家族にハムとキュウリが嫌いな者がいるので、つい作るのを避けてしまうのです。

観察園も 10 月 1 日から開園することとなりました。まだまだ蚊が多いですので対策は万全に。あなたの秋が見つけれられますように。お待ちしております。



タマスダレ *Zephyranthes candida* ヒガンバナ科



セッコク *Dendrobium moniliforme* ラン科



ジンジャーリリー *Hedychium sp.* ショウガ科



ノカンゾウ *Hemerocallis fulva* ススキノキ科



センニンソウ *Clematis terniflora* キンポウゲ科



シオン *Aster tataricus* キク科

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付  
電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)  
Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口  
ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan  
年会費 1000 円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は 500 円 (次年度は 1000 円)  
家族会員制度あり (同居の家族 1 名まで年会費を免除)  
<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会  
他銀行からの振り込み ○八九 (ゼロハチキユウ) 店 (089) 当座 0166807